

藍住町中学生海外派遣事業を終えて

藍住東中学校 教諭 松永 恵理

本事業では、子ども達は言葉では言い表せない貴重な経験を積むことができました。出発前は家族から離れることや、初めての海外への不安な気持ちもあったと思います。しかし、10日間という短い期間でしたが、この経験を通してかけがえのない財産を手に入れることができたと思います。

オーストラリアでホームステイを始めるとき、言葉や文化、習慣の違いに戸惑いもあったかもしれません。日常生活の中で日本とは異なるルールなど、調べて知っていたこともあったと思いますが、目の前にすると改めてその違いを実感したと思います。しかし、この経験は、新たな発見として子ども達の中に残り、感動に変わったものもあったと思います。英語が上手く言えなくてもホストファミリーは、耳を傾け温かく接してくれたそうです。おいしくて気に入ったご飯を別の日にもう一度用意してくれたり、家族の一員として一緒に誕生日会をしてくれたりもしたそうです。日本ではなかなか食べることのないものを食べることもでき、食文化も知ることができました。お別れする日は本当に名残惜しく、涙する子もいました。帰りのバスの中で、ホストファミリーが作ってくれたアルバムを見せてくれました。どの写真もいい表情で素敵な日々を送ったことが伝わってきました。子ども達には忘れられない思い出がたくさんできました。

現地の学校生活も大きな学びの場になりました。ゴスフォードにある「St Philip's Christian College Gosford」という小・中・高が一緒になっている学校に通いました。日本の学校と違う授業スタイルを経験することができ、バディとの学習も充実したものになりました。バディは日本の高校生くらいの子達で、数学や保健、ウクレレ作りをしている技術の授業などを一緒に受けました。中には裁判に関する授業もあり、模擬裁判をしたそうでこのような授業があることに驚いていました。「モーニングティー」という2時間目と3時間目の間の休憩時間やランチタイムでは、日が経つにつれて子ども達から話しかけることも多くなりました。指遊びを教えて一緒にする姿や、日本のお菓子を配り一緒に食べる姿も見かけました。文化交流会でも声をかけ一緒に羽子板をしたり、折り紙の説明をしたりし親睦を深めることができました。「もっと英語を学習して話ができるようになりたい」とコミュニケーションの大切さを実感し、英語学習への意欲が高まったと感じました。

シドニー市内での観光では、歴史的な建造物やその土地の自然などに触れることもできました。オペラハウスやハーバブリッジを実際に見ると、写真で見るとも迫力があり、シドニーという都市の象徴としての存在感を強く感じました。ホストファミリーと過ごした週末にはビーチや動物園に行った子ども達もいました。歴史、文化、自然だけでなく多種多様な人々が生活する魅力的な都市であることを肌で感じることもできたと思います。

今回の経験は、子ども達にとって素晴らしいものになったと思います。この経験を思い出として終わらせるのではなく、今後の人生に活かしてほしいと思います。また、何事にも挑戦する勇気を持ち、様々な可能性を広げていってほしいです。このような貴重な機会をいただき感謝いたします。ありがとうございました。

